

はじめに

2016年に、「なぜ人事担当者は君を採用したいと思わないのか？」初版を上梓した。「コミュ障」(コミュニケーション障害)という言葉が生まれ、コミュ障を自覚する者や自分はコミュ障ではないかと不安を抱く学生が急増していた。社会も、学生たちのコミュニケーション力の低下を危惧し、採用に求める能力として、コミュニケーション力を求め続けた。今もその状況は変わっていない。

2020年、新型コロナウイルス感染が世界を震撼し、世の中に大きな変換とパラダイムシフトを産んだ。これによって、就職活動の形も一見様変わりしたように映る。しかし、本質は何も変わっていない。自分がその企業にとって魅力的な存在か、就職してもらいたい人材であるかが、これまで通りに問われるだけである。

採用面接が対面からオンラインに大きくシフトしたことは、大きな変化だとの声があるだろう。もちろん、画面越しに映る自分の姿、音量・音質などは、気を付ける必要はある。しかし、これらはデジタル社会における常識であり、デジタルの申し子である君ならすぐに適応できることだ。不安視することはない。

問題の本質は、「なぜ人事担当者が君を採用したいと思わないのか？」である。私はコミュニケーショントレーナーという職業柄、日々様々な職種の人事担当者ともお会いし意見交換を行う。そこで、多くの方々が口にするのが、社会人になるにあたっての基本的なマナーが身に付いていないことだ。まずは、出来て当然のコミュニケーションが出来ないのだ。これでは、どんなに優秀な頭脳や才能を持っていたとしても、採用したいと思わないのも当然だ。

本書で、就職活動までに身につけておくコミュニケーション力を再確認し、「わかる」ではなく、確実に『できる』ようにしよう。コミュニケーションは、できるようになって初めて評価される。

学生生活は瞬く間に過ぎ、就職活動が始まる。本書のトレーニングを修了し、「わかる」から『できる』ようになれば、まずは一安心。学生たちのコミュニケーション力は低下の一途を辿っているのだから、君は大きくリードすることになる。